

---

# 第10期 事業報告書

(第10期:令和2年5月1日~令和3年4月30日)  
期間:2020年5月1日 ~ 2021年4月30日



令和3年7月1日

認定特定非営利活動法人Switch

## ■はじめに

当法人は、おかげさまでこの3月に創立10年を迎えました。思えば2011年は、東日本大震災の影響による人々へのこころのケアが必要となり、私たちは「こころ」をキーワードに様々な活動を行ってきました。そして近年では、自死予防対策のひとつとなった「若者こころの支援事業」における大学生のゲートキーパー養成やピア活動の促進など、「障害福祉」の分野を超え多様な人々へ寄り添う取り組みを進めております。

2021年のいま、社会はウイルスという目に見えないものに不安や恐怖感を抱えながら「寄り添う」「触れ合う」「対話」などが困難になったなかで、どうしたらひとと人とのつながりを持っていくことができるかを模索していることだと思います。

この未来を想像しても、自然災害なども含め、いつどこで何が起こるか予測できない時代となったことを経験した私たちですが、そういう時代だからこそ、私たちの働き方、消費する生活が本当にこれでよかったのか自分に無理はしていないのかという問いを考えていくことも時には必要なのかもしれません。

次の10年に向けて、当法人では設立当初から大切にしてきた「多様性を認め合う社会」を理念にダイバーシティ&インクルージョンへの取り組みを一層加速させながら、社会のなかでひとり一人大切な存在として活躍できるよう、共に成長する組織を目指して参ります。

これまでの10年、当法人を支えてくださった方々に感謝申し上げますとともに、これからも私たち Switch を応援いただければ幸いです。



認定NPO法人 Switch  
理事長 高橋 由佳

## ■認定 NPO 法人 Switch の事業概要

事業の実施に関する事項

### (1)障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)に関する事業。

#### ①自立訓練(生活訓練)

障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」

◆成果と今後の課題

令和2年度は就職者数が3名(OP2名 GL1名)となっている。新規相談としては、20代と若い世代が多くなっている。石巻圏域は就労移行支援を辞める事業者が多く、現在2事業所しかないことから、早期に就労を希望する方の相談も増えており、そういったニーズにも対応して支援を行っていきたい。

紹介元としては相談支援事業所や医療機関からの紹介が多いため、引き続き各所との連携を図っていく。

◆実績

令和2年度相談件数(件)

10代	20代	30代	40代	50代	60代
0	8	4	2	2	0

男女比

男性	女性
7	9

紹介元

行政機関	相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	学校	HPメディア	知人・友人・家族	その他
1	4	2	0	2	1	0	1	5

その他の内訳

他事業所からの紹介、石巻ファーム高橋代表より紹介、実施した相談会

令和2年度在籍者数

自立訓練(14名)

10代	20代	30代	40代	50代	60代
0	9	2	1	2	0

男女別

男性	女性
3	11

卒業者内訳(退所理由)

就継B	就継A	移行支援	就職	体調不良	期間満了	その他
0	0	0	3(OP2)	0	1	0

その他内訳

--

### ◆活動内容

個別の時間での相談を中心に行いながら、日常生活動作の向上、各種講座の参加、ウォーキング・アートプログラム・認知プログラム・コミュニケーション講座・PC 講座・就職活動講座・事務軽作業、面接練習、資格勉強等

スイッチ・イシノマキ サービス管理責任者 坂下 直也

## ②就労移行支援事業

### 障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」

#### ◆成果と今後の課題

今年度は、新規登録が 20 名、就職者が 9 名であった。昨年度までの比較で、コロナウイルスも影響して全体的に大幅な減少につながったと考える。就職者数を見ると、例年とあまり変わらない実績を出している事業所と比較すると、定型作業とその作業内容による専属応募先がほとんどないことが減少の一因と考えられる。今回のような状況でも等事業所の特徴を維持しつつしっかりと就職者を出していく事が地域での差別化を図っていく事と考えると、対利用者への支援に加えて、企業開拓に対しても ICT も活用した積極的な働きかけが必要となると考える。

新規者相談者数も減少しているものの、後半に盛り返しがみられる。医療機関からの紹介が多いことを鑑み、引き続き医療機関には丁寧なつながりを維持しつつ、相談支援事業所や公共の就労相談機関との繋がりを強化していく事は今後の課題である。

支援にいち早く ICT を取り入れられた事は一定の成果ともいえるため、今後は ICT の活用を一層昇華し、支援の幅の拡大とともにコロナウイルスに限らず、様々な世相の変化に対しても臨機応変に対応していける柔軟さと、積極的に地域（関係機関や企業等）に働きかける機動力を活かしていく事業展開をしていきたい。

#### ◆実績

新規相談来所数	新規登録者数	年間在籍者実数	就職者数	6ヶ月定着者数
59人	20人	55人	9人	17名(85%)

#### 在籍者年齢層

10代	20代	30代	40代	50代	60代
0人	25人	14人	13人	3人	1人

#### 紹介元内訳

病院	役所	相談支援事業所	公共の就労相談機関	その他
21人	10人	5人	3人	20人

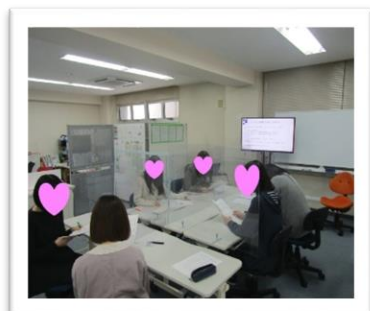
#### \* その他

パンフレット/友人・知人/職場/WEB/ その他福祉系サービス（B型、移行、地活等）/再利用/法人本部事業

### ◆活動内容

個別担当制の伴走型就労支援（IPS）を実践している。

主なプログラム内容は、認知行動療法、コミュニケーション、セルフケア、就活講座、PC 講座、の 5 つである。また、R2 年度から ICT を利用した在宅での活動も可能となっており（コロナ特例から R3 年度以降は常設）通所が出来なくても上記講座に参加や、個別を含めた活動に幅を持たせることができた。



### ③就労継続支援事業

#### 就労定着支援スイッチ

令和 2 年度 就労定着利用状況

在籍者数	うち、期間満了修了者	うち、離職者数
12 名	1 名	1 名

令和元年 12 月より「定着支援事業」を開設し、初年度となる 1 年であった。就労開始 6 か月目から 3 年間は月 1 回以上の支援をして、就労継続をサポートする事業である。

スイッチ・センダイでも、就労定着支援の利用を前提とした切れ目のない長期フォローを掲げている。一方で、非開示・フルタイム就労の就職の方など、多様な就労先に勤務する方もいることを踏まえ、利用については自己決定を最大限に尊重するように心がけている。

利用者の状況を見ると、多くの方は 1 年目で心身が仕事に慣れ、徐々に生活やキャリアの課題が上がってくる。仕事が安定することで、自立に向けて一人暮らしやグループホーム入居など、取り組む方もいた。大きな変化は就労にも影響がでるため、既存の支援機関だけでなく、新しい支援機関とも密にかかわり地域生活を支えることが増えている。長期の就労継続において、支援者の関わる必要性和意義を強く感じている。

自立は独居だけでなく、余暇の充実や、パートナーを得ることなど、それぞれのキャリアプランを描きながら仕事と両立して暮らしている。それぞれの課題はあるものの、働いて自らが望む生活を送ることを最大限支えていきたい。

(2) 障害者就労定着支援事業（ジョブコーチ支援、フォローアップ支援）

ジョブコーチ支援事業

### (2)ジョブコーチ支援事業

- ・障害者雇用安定助成金（障害者職場適応援助コース）

令和2年度実績

	実対象者数	支援回数	離職者	稼働配置 JC
令和2年度	7名	32回	0名	3名

- ・実対象者7名のうち、令和2年度新規開始者は3名であった。
- ・令和元年12月より就労定着支援事業の開始に伴い、ジョブコーチ支援の利用は減少と、短期間で就労定着支援事業へ移行する流れとなっており、今後も同様の流れが見込まれる。

### (3)就学・就労支援事業

#### ①ユースサポートカレッジ 仙台 NOTE

##### ◆成果と今後の課題

今年度はコロナ禍の中、これまでの対面での相談や講座開催、インターンシップ等、活動を制限せざるを得ない状況から始まり、この一年で世の中では学生の孤立やひきこもり、伴うメンタル不調、子ども・若者の自殺率の増加等のコロナ禍の社会課題が日に日に顕著となった。微力さを感じる日々の中で、改めて仙台NOTEで今できること、利用者に届く支援について考えさせられた一年となった。

年度早々にはZoomにてオンライン面談やキャリアカウンセリングをスタートし対話ができる仕組みを作り、心理的安全性を考慮したお茶会等のプログラムから準備。ここに居場所があることを伝え続けこころの孤立を防止した。数回のオンラインキャリアカウンセリングを通して就職が決まった例や、県外からの学生の参加、大学の学生相談室と学生との三者面談をオンラインで実施したりなど、支援の幅が広がり、就職者や修学(復学)者を出すことができたことは成果と捉えている。

今年度社会課題として顕著に見えたものは、コロナ禍による大学生の孤立とオンライン授業への適応が難しいメンタル不調を抱えた学生の存在であり、休学中の居場所としてNOTEを利用する学生(首都圏もめ)が目立った。(逆に対人関係が苦手な学生にはオンライン授業がメリットとなり進級でできた学生もいた)。学生が安心して居場所利用できる公的機関はなく、NOTEで学生のメンタルヘルスを支える居場所を継続して行くことの意義を改めて感じている。現在法人事業で取り組んでいる若者の自死予防事業と連動し、生きづらさを抱えた若者を多様な角度で支える仕組み作りを考え、多様性を認め合う社会作りに向けて継続性のある運営基盤を作っていきたい。

##### ◆実績

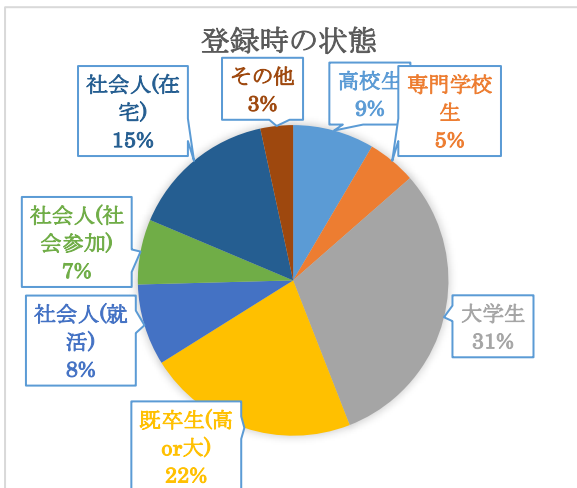
ユースサポートカレッジ事業(仙台NOTE第10期)

##### ◆活動実績

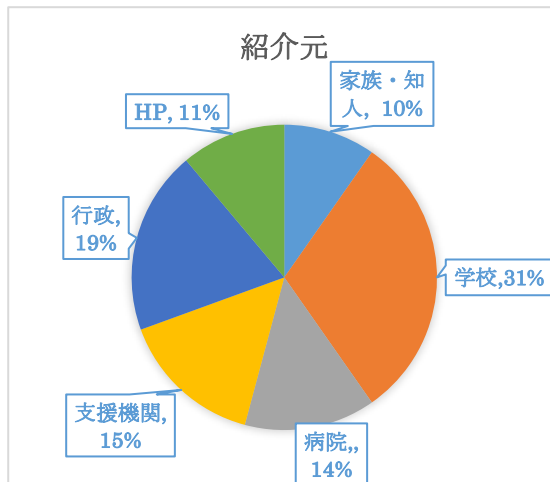
- 登録利用者数 72名(男性40名・女性32名)
- 新規相談件数 48件

■延べ利用者数	990名
■延べ就労相談件数	539件
■インターンシップ件数	41名
■就職決定者数	22名
■修学（復学）	9名（大学修学5名・復学4名）

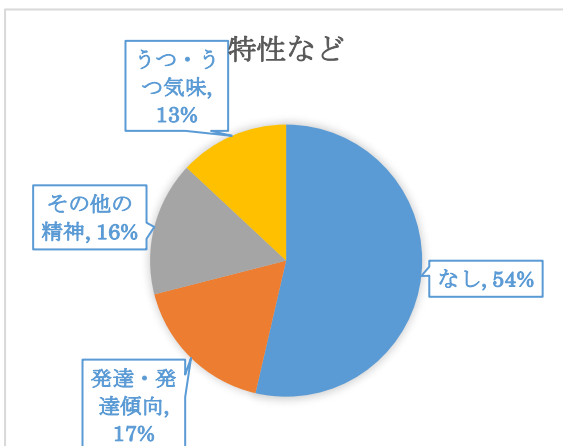
◆令和2年度の利用者の傾向



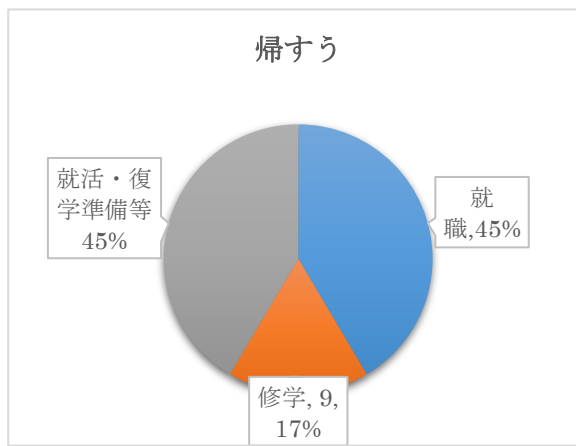
45%が学生。休職中の居場所としての利用が増加。卒業後の就活準備の進路として既卒生の利用も  
※社会参加とは週2回程度の外出、在宅はそれ以下  
半数以上の利用者が三か月前は外出がままならない状態



昨年同様教育機関（学校の学生相談室や教員）からの紹介が増加。



コロナ禍の大学生生活の変化（オンライン授業等）で心身のバランスを崩し来所した学生が増加



コロナ禍の中でも一定の就職率を上げることができた。

◆活動内容

働くこと・学ぶことに不安や困難を抱えた大学生・専門学校生・高校生や16歳～20代の若者に対し、心のケアをベースとした就労準備支援（講座プログラム・インターンシップ）・修学/復学支援・居場所支援を実施。令和2年度の活動詳細は●ページ「日本郵便年賀寄付金助成事業」に記載。

## ②ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE

### ◆（成果と今後の課題）

20代までの若者の就労支援、高校生の就職、進路決定支援、NOTECaféを実施し、一定数の進路決定者と就職者を出すことが出来た。NOTECaféにおいて実施校が2校から3校へ増えたことで、石巻NOTEへつながる方も増えたことは成果である。中卒進路未決定者へのアプローチが十分でないことは課題であるため、市内中学校との連携の方法の模索や、高校との連携を増やしていくことが必要である。

また、本人に障害があるが、サービスを受けることに抵抗がある、親御さんから反対されることも要因となり障害受容が進まない方のケースでは就職が困難になり、就職活動が長期化しており、そういった方の受容の支援も課題と考えられる。石巻NOTEは同フロアに障害福祉サービスが併設されており、講座等は障害福祉サービスと合同で行うことも多くなっている。その中で自己受容が進みサービス利用につながる方もいるため、障害福祉サービス事業と自主事業と枠の違いはあるが、本人の希望や想いを聞きながら、一体的に支援を行っていききたい。

NOTECaféにおいては、圏域内3つの高校において、進路指導の先生等より紹介を受けた方への就労・進路決定支援を実施。また、課題を抱える生徒についての相談支援も行った。最近の傾向として学校から発達障害グレーゾーンや精神疾患を持つ生徒が紹介されることが多くなっていることが挙げられる。現在は困難を抱えていないが今後、気軽に相談ができるようにとNOTECaféを開設している旨もあるが、現在は困難を抱えていない層とのコンタクトが難しい状況となっているところが課題である。今後はさらにNOTECafé実施校を増やしていききたい。

また、多くの課題を抱える方々に対して、NOTE+のアウトリーチ支援を組み合わせ一体的に支援を行っていききたい。

### ◆実績

#### ■石巻NOTE

登録者 52 人、新規相談者 29 人、相談件数 1534 件

見学・実習 27 回開催（参加者 6 名、延べ 44 回参加）

卒業者 24 人（帰すう：就労 11 人、福祉サービス利用 6 人、進学・復学 4 人、その他 3 人）

#### ■NOTECafé

訪問校 3 校、訪問回数 33 回

相談対象実人数 70 人、相談件数 96 件

見学・実習 1 回開催（参加者 1 名、延べ 1 回参加）

### ◆活動内容

事業所での活動として、個別での相談を中心にVRTやGATBを活用、職場体験等の就労支援。本人の興味関心に基づく進路決定のプロセスをサポートしていく進路決定支援。休学中の高校生が居場所的な活用をしながら自身の状況を確認、セルフケアについて検討していく場の提供。その中で、一人ひとりの状況に合わせて就活、個別の余暇に焦点を合わせた相談支援を実施。

ユースサポートカレッジ石巻NOTE 山下祐史



### ① 石巻圏域若者伴走支援センター事業

石巻圏域内の困難を抱える16歳（高校生年代）～39歳の若者とその家族への個別伴走支援のための事業として令和2年度より実施している事業である。対象者の状態像としては、生活困窮、不登校、引きこもり、障がい、触法、虐待など多重的な困難を抱えている若者である。また課題はあるが利用できる制度がないことや制度の利用に至る以前の状況であること等、既存の支援では使える社会資源がないことも多い。このような困難を抱える背景としては、家族力が低い等、世帯全体の課題であることも多く、本人だけではなく環境への働きかけを各種関係専門機関と連携して支援展開する必要がある。そのため、当事業の支援要請は本人や家族からだけではなく、学校や虐待防止センター、子供若者総合相談支援センター等の関係機関からの依頼であることも多い。地域の中で世帯や本人が孤立しないために機能している事業であるといえる。

今年度の支援者内訳（年代別）としては、10代48%、20代26%、30代26%となっている。地域別内訳は石巻市91%、東松島市9%、女川町は0%であった。

来年度は、地域の中ですでに認知が高い石巻NOTEと一体化し、必要なケースへのアウトリーチ支援の提供を強化していきたい。

#### ◆実績

支援総数 706件

支援手段

アウトリーチ 173件、来所 53件、電話・メール等 473件、その他 7件

支援内容

支援 333件、他機関連携 296件、ケース会議 20件、新規相談 16件、他機関よりリファー18件

石巻圏域伴走支援センターNOTE+ 長岡千裕

## (5) 研究事業(障がい者の理解促進を図る啓発活動、調査研究および政策提言に係る事業)

- ・ 仙台市障害者施策推進協議会委員 委嘱 小野
- ・ 仙台市自殺対策連絡協議会委員 委嘱 小野
- ・ 宮城県いじめ防止対策調査委員会委員 委嘱 小野
- ・ 障害者雇用支援連絡協議会委員 委嘱 小野
- ・ 宮城県青少年問題協議会委員 委嘱 (小関)

## (6) 研修事業(マネジメントサポート・講演会・ボランティア養成)

- ・ 令和2年6月、7月、8月、9月 仙台市子供相談支援センター出張就労講座 キャリアゼミ講師(全8回) (小関)

- ・令和2年11、12、令和3年2月 NPO 法人アスイク 支援スーパービジョン 実施（対象スタッフ5～7名）（小野）
- ・令和2年11月 令和2年度ピアサポーター養成研修 講師 「はたらく人のセルフケア」（小野）
- ・2020年12月3日 「自団体の活動・事業の価値を共有する方法 ～評価の基本を学ぶセミナー」  
みちのく復興・地域デザインセンター主催。  
登壇（今野）
- ・令和3年3月 トライ式高等学院 キャリアゼミ講師（オンライン）（小関）

## （8）教育事業（技術向上のための講座開講）

主体：みやぎこころのデザイン教育実行委員会（SCOPE）

実施校：4校

石巻高等学校・大河原小学校・大河原南小学校・金ヶ崎小学校

今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、授業実施依頼が少なかったことや積極的活動ができなかったこともあったものの、大河原町では、健康推進課との協働での実施となり、自死予防の観点からも今後も重要な活動として継続して実施していくことになった。

また、2021年度より高等学校の教科書に「こころの病」について記載されることになり、目標としていた「こころの病」に対する知識不足や誤った情報による偏見をなくすということや、援助希求を高めることなどが理解されてきたことは、活動の目標達成につながってきている。

## （12）その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

■キャッシュフォーワーク2020（休眠預金等活用事業）「CASH FOR WORK みやぎ2020事業」

・事業期間：令和2年10月1日～令和4年1月31日

・助成元：

資金分配団体 Reep 共創財団

指定活用団体 一般財団法人 日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

・事業内容

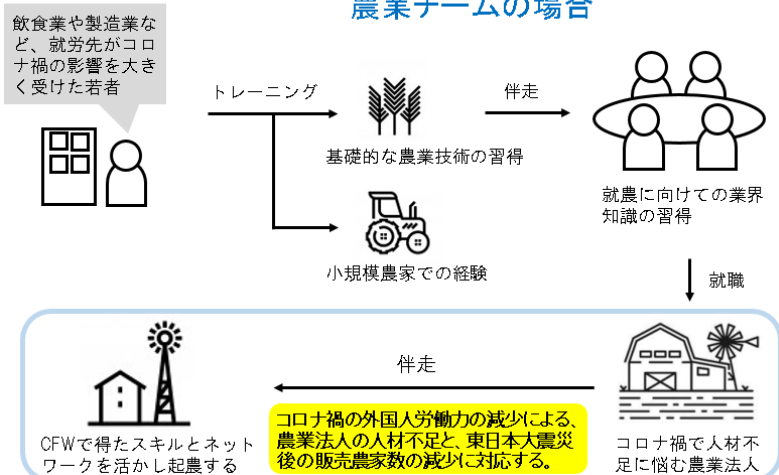
「キャッシュフォーワーク2020」は、コロナ禍で収入が減少し、生活困窮に陥った若者への就労支援を行う助成プログラム。本事業は、休眠預金等活用法に基づき、JANPIA（一般社団法人日本民間公益活動連携機構）による「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」を受け、実施する。

・対象者：宮城県内の18歳～39歳で、新型コロナの影響により就労に課題を抱えた若者で、IT分野や農業分野に興味を持つ若者。安定した雇用環境がなく、生活保護や障害福祉など、社会福祉のセーフティネットの活用もできない中間層を対象とする。

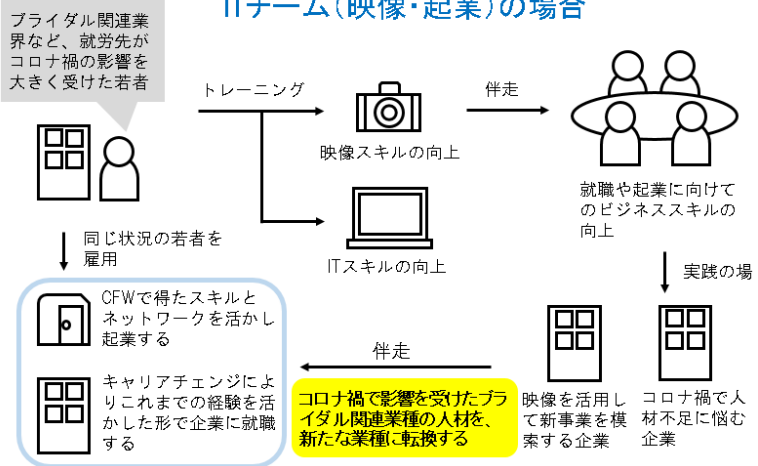
今回の事業では、大きく二つの分野における就労支援をデザインした。1つは「農業分野」である。東日本大震災後、東北地方の生産農家数は大きく減少を続けているが、一方で、大型の農業生産法人は増加を続けていることから、就職の機会があると考え、仙台地区と石巻地区にて農業法人と連携した就労支援プログラムを展開している。

もう一つは「IT 関連分野」である。新型コロナウイルスの影響を受けやすい飲食業や、サービス業などに従事していた若者を対象に、IT 関連スキルを向上させるプログラムを展開し、本人のキャリアチェンジを促している。中でも結婚式関連業界にいたが、雇止めになり、本人たちの映像関連スキルを活かして起業を目指す若者が出てくるなど、本来若者たちが持っている力を活かして新しい社会に対応する働き方の創出を目指している。

### CASH FOR WORK MIYAGIが与えるインパクトイメージ 農業チームの場合



### CASH FOR WORK MIYAGIが与えるインパクトイメージ ITチーム(映像・起業)の場合



#### ■赤い羽根チャリティホワイト 「NOTECafe 事業」

- ・事業期間：令和2年
- ・助成元：赤い羽根共同募金会
- ・事業内容：石巻圏域における高校内居場所カフェ事業の展開。

今回の事業では、圏域の2つの高校で NOTECafé を合計 21 回開催し、66 名の生徒とコンタクトできた。スタッフは指導的な立場を取らないことから、安心して不安や家庭の状況などを話してもらうことができた。

- ・地域の上位校を含む圏域の全ての高校(9校)を訪問し、教員と関係を構築したことで今まで以上に円滑なケース共有が出来るようになった。
- ・圏域の高校内で行われる食料配布活動と連携し、多様な生徒との交流機会を持つことができた。
- ・上記の結果、15名の不登校生・進路未決定の卒業生・中退者が当法人の常設機関または自宅への訪問支援機関などにつながった。



## ■JCoin 基金 「石巻ユースサポートカレッジ事業」

- ・ 事業期間：令和 2 年
- ・ 事業内容

石巻広域圏（石巻市、東松島市、女川町）において、就労や修学に課題を抱えた 15 歳～29 歳の若者を支援するサポートオフィス「ユースサポートカレッジ石巻 NOTE」を設置し、新型コロナに伴い、急激に低下した有効求人倍率や、外出制限に伴う就活困難に直面する若者に対し、緊急就労支援と情報格差の解消に取り組む。

- ・ 個別伴走型支援事業：一人一人の将来の目標に寄り添ったうえで、現在の悪化した企業マインドの中での就労サポートを実施する。
- ・ 各種プログラムの展開：IT スキルアップ講座。健康講座。メンタルヘルス講座。就活講座。など、将来の自己実現に向けて必要なプログラムを展開。テレビ会議システムのようなオンラインのコンテンツとオフラインのプログラムを併用しながら、ウィルスへの抵抗感を軽減する。
- ・ 電話、メールでのフォロー：ウィルスへの不安が要因で通所が難しい若者に対して、電話やメールでの個別サポートを実施し、孤立感を軽減するとともに、将来再度外に出て活動ができるタイミングに向けての準備性を高める。
- ・ 他機関連携でのセーフティネットの構築：石巻圏域で訪問による支援を展開している機関との連携を深め、通所が難しい層への接点の構築を進める。

## ■宮城県若者こころの支援モデル事業

若者の自死予防をはじめとするメンタルヘルス対策の推進を目的とした普及啓発事業

### 1) 大学生ゲートキーパー養成講座

回	月日	対象者	議題等	参加者数
1	9月8日	宮城県内大学生全般	大学生ゲートキーパー養成講座（オンライン）	13名
2	12月10日	尚絅学院大学心理学部	大学生ゲートキーパー養成講座（オンライン）	61名

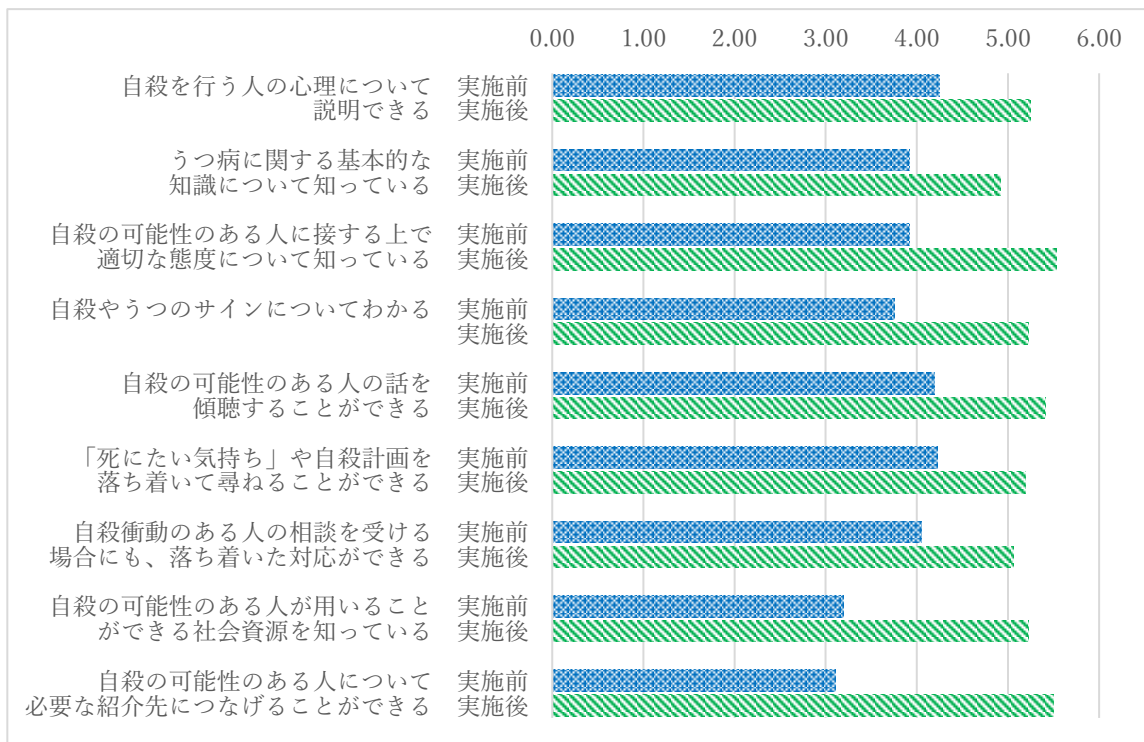
#### 【内容】

今年度は新型コロナウイルス感染予防対策としてオンラインにて実施。昨年作成したコンテンツを元に、今年度は 60 分版、90 分版を作成し実施。（コンテンツは昨年度尚絅学院大学の内田知宏准教授に監修を依頼、「自殺学」第一人者である和光大学の末木新准教授に資料提供にて協力を頂き作成）

#### 【効果について】

尚絅学院大学においては講座実施前実施直後にアンケートを実施し、学生の自死予防に対する意識の変化について実施前と実施後に調査。一定の変化が見られ、特に自死の可能性のある人への適切な態度、自死の可能性のある人が用いる社会資源を知る、必要な紹介先につなげることができ

る、の項目については大きな変化があった。



## 2) 若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発

### 1) 研修や講演会

① 日時：9月30日（水）13:00～15:00（オンライン） 29名参加

演題：子ども・若者の自死予防を考えるセミナー

「子ども・若者の自死とその予防～追いつめられる若者とSNSでの支援～」

講師：末木 新 氏（和光大学現代人間学部心理教育学科 准教授）

② 日時：12月23日（水）13:30～15:30（オンライン） 50名参加

演題：子ども・若者の自死予防を考えるセミナー

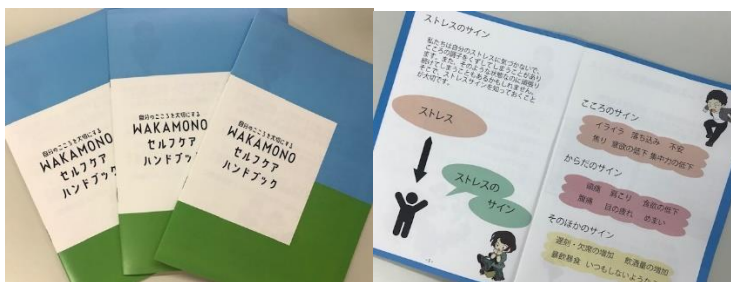
「コロナ禍における若者の自死と予防を考える」

講師：高橋 聡美氏（中央大学人文科学研究所客員研究員）

### 2) 普及啓発活動

「WAKAMONOセルフケアハンドブック」の作成（別冊添付）

大学を中心とした教育機関、支援機関等に配布



### 3) 若者こころの支援会議

県内大学関係者、宮城県保健福祉部精神保健推進班、民間若者支援団体（一般社団法人ワカツク）、事業主体団体にて構成

第1回：令和2年9月1日 19名参加

第2回：令和2年12月1日 13名参加

第3回：令和3年2月24日 13名参加

参加大学：尚絅学院大学・石巻専修大学・仙台大学・東北医科薬科大学・東北学院大学・東北工業大学・東北文化学園大学・東北大学・宮城大学・宮城教育大学・宮城学院大学  
(ユースサポートカレッジ仙台 NOTE 統括 小関美江)

#### 【宮城県障害者能力開発校 委託事業】

令和2年度短期委託事業（集団訓練）セルフケアマネジメント科 開校

精神障害・発達障害のある方に特化した公共職業訓練を実施

開催時期：令和2年8月19日～令和2年9月28日

受講者2名

#### 【東北工業大学 キャリア講座委託】

生活デザイン学科2年生対象キャリアセミナーⅠ（100名）今年度はオンラインにて実施

本格的な就活の前に土台として必要な社会基礎力の習得を目標とする

日付	担当講師	タイトル	内容
10月9日（金）	小関	学生のキャリア・デザイン	学生と社会人の違い・社会人基礎力とは 自身のキャリアについて考える
10月16日（金）	高橋	日本のNPOと企業の社会貢献活動について	世の中の多様な働き方を知る
10月23日（金）	小野	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎理解
10月30日（金）	小野	自分プレゼン術	自己理解・基礎（自分の魅力に気づき伝える）・セルフケア
11月6日（金）	加藤	文章の書き方	小論文対策 文章による論理的表現を学ぶ
12月4日（金）	小関	面接のポイント	面接（対面・オンライン）で自己表現するポイント
12月11日（金）	高橋	課題解決コミュニケーション①	CBT（認知行動療法）ベースとした課題解決法（実践）
12月18日（金）	高橋	課題解決コミュニケーション②	CBT（認知行動療法）ベースとした課題解決法（実践）

12月25日(金)	加藤	学生のメンタルヘルス	「怒り」について(アンガーマネジメント)
1月15日(金)	小関	就職活動に向けて	今後のインターンシップ・就職活動の流れや必要な準備・EQ

■日本郵便年賀寄付金助成事業(令和2年4月～令和3年3月)

ユースサポートカレッジ仙台 NOTEにて、働くこと・学ぶことに不安や困難を抱えた学生や16歳～20代の若者に対し、心のケアをベースとした就労準備支援・修学/復学支援・居場所支援を実施。

① 各種プログラムの開催(はたらく・まなぶ準備プログラム)

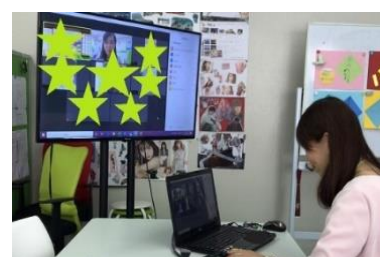
全85回実施(就活講座27回・こころの講座22回・コミュニケーション講座5回・ソーシャルマナー講座6回・パソコン講座13回・アートプログラム12回)



こころの講座(メンタルヘルス)



就活講座



Zoom アートお茶会

② 職場体験実習(mini インターンシップ)

41名(延べ60名)



③ 外部講師の特別講座



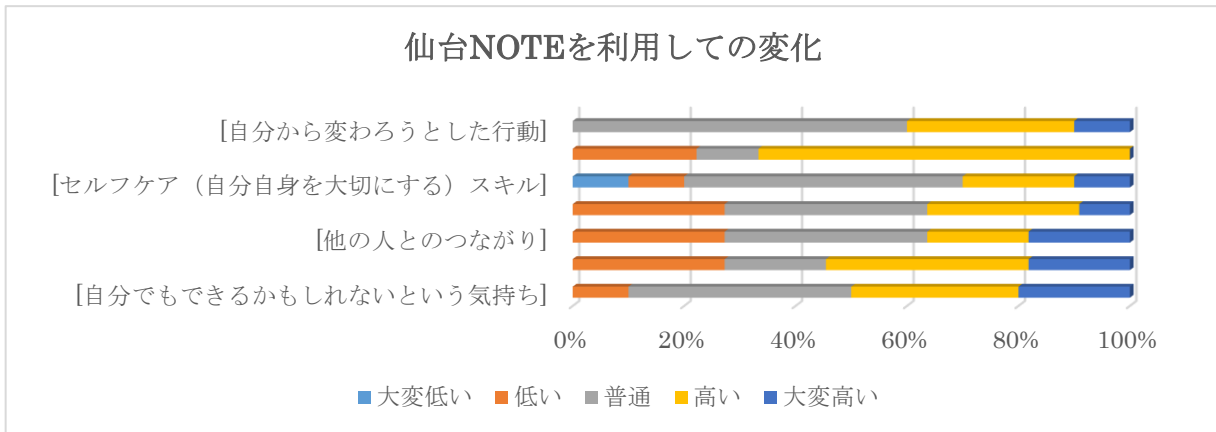
【3月】  
入門ヨーガ  
坂上 友恵講師

【8月】  
WRAP講座  
堀内 美咲講師

【12月】  
アロマセラピー講座  
たかはし まりこ講師

【2月】  
心色探検隊  
本間 章講師

【修了アンケート  
より】



#### 【利用して良かったこと・変わったこと】

- ・ 焦る気持ちが軽くなったこと。
- ・ ボランティア活動をするきっかけに会えたこと。
- ・ 家庭とも学校とも異なる第3の居場所ができたこと、気軽に悩みを打ち明けられる相手ができることが良かったです。
- ・ 特に良かった点は、就職活動に必要な事を丁寧に教えてくれたこと。
- ・ 相談や講座、行き場所があって良かったです。
- ・ 体調が良くなり、就職に関しても進めたのでありがとうございます。
- ・ 自分を知る事の大切さに触れたこと。

#### ③ 若者支援を考える講演会開催

困難を抱えた若者を取り巻く現状やその支援について考えるための講演会を開催した。

「何度でもやり直せる社会をつくる～困難を抱える若者がこの社会を生き抜くために～」

3月19日（金）13：30～15：30（オンライン）

講師：安田 祐輔氏（株式会社キズキ/NPO 法人キズキ）代表

参加人数：40名



## ■メディア掲載

- ・令和2年6月：河北新報 宮城県若者こころの支援モデル事業「WAKAMONOゲートキーパーハンドブック」紹介 掲載
- ・令和2年7月：仙台市市民活動サポートセンター通信ぱれっと 宮城県若者こころの支援モデル事業「大学生ゲートキーパー養成講座」紹介 掲載
- ・2020年10月 ラジオ石巻「石巻NPO日和」にて石巻事業所を紹介
- ・2020年12月 いしのまきNPOセンター広報誌にて石巻事業を紹介
- ・2020年12月 石巻日々新聞「いしのまきNPO日和」にて石巻事業所を紹介
- ・令和2年2月 尚絅学院大学紀要第80号 「大学生に対するゲートキーパー養成講座の予防的研究」 宮城県若者こころの支援モデル事業の取り組み（加藤）
- ・2021年3月9日：ソフトバンクニュース 安心できる居場所を子どもたちに～東北の子どもたちに今、私たちができること～ にて、石巻のNoteCafe事業を紹介
- ・2021年3月23日：石巻かほく〈しょくば拝見〉進路支援・ユースサポートカレッジ石巻NOTEにて掲載
- ・2021年3月27日：河北新報 矯正就労支援のいま「③寄り添う」 にて、触法領域の若者支援の取り組みについて掲載
- ・2021年4月26日：河北新報 ニュース深掘り「前歴者の就労支援不十分」にて、触法領域の若者支援の取り組みについて掲載